

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	ジブチ共和国マルカジ難民キャンプで生活するイエメン出身の青少年のライフスキルを高め、適切に保護される環境を整えること。
(2) 事業の必要性(背景)	(ア) ジブチ共和国における開発ニーズ ジブチの国土は狭小であり、自然環境も厳しく、港湾・物流等のサービス業以外に経済を牽引する産業はなく、経済社会基盤は脆弱である。国連の統計によると、1日1.25ドル未満で生活する人々の割合は約2割に達する(2002年)。一方で、不安定な「アフリカの角」に位置し、アジア、アフリカ、欧州をつなぐ海上交通路の要衝であるジブチは、1977年の独立以来、常に多くの難民を周辺各国から受け入れてきた。90万人に満たない人口に対し、25,000人を超える難民・亡命希望者を受け入れている(UNHCR_2016年12月)。 (イ) 「持続可能な開発目標(SDGs)」との整合性 難民の子どもの保護に資する本事業は、「目標16. 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する」の「16.2 子どもに対する虐待、搾取、取引及びあらゆる形態の暴力及び拷問を撲滅する」に一致する。 (ウ) 国別援助方針との整合性 平成26年4月に策定された日本政府の「対ジブチ共和国国別援助方針」において「地域の安定化努力強化」は3つの重点分野の1つに指定され、「難民・移民対策等の各種支援」が掲げられている。平成27年4月現在の「対ジブチ共和国事業展開計画」でも、ソマリア、エチオピア、イエメン等より流入する難民に対するプログラムが含まれている。 (エ) 「TICAD VI」との整合性 本事業の難民の人材育成は、「TICAD VI」における三本柱の内、「繁栄の共有に向けた社会安定化」に貢献するものである。 (オ) 申請事業背景 2015年3月以降激化しているイエメン国内の紛争により、現在までに約37,000人(イエメン国籍保持者は約2万人)が、気温が50度を超える灼熱のアフリカの地ジブチ共和国に避難し、そのうち十分な資金を持たず、第三国への移住やジブチ市内の親戚家族等に身を寄せることができない最も脆弱な約1,400人が、同国北部のオボック市に位置するマルカジ難民キャンプに居留している。同キャンプには約400人の青少年がいるが、空爆や地上戦に巻き込まれてきた経験から、また、移動の自由が認められておらず、将来についての展望も一切見えないキャンプ生活の中で、PTSDや強いストレスを感じているものが多い。不満が溜まった大人による性的暴行から身を守るために、女兒は家から出ることすら制限されており、子どもを含む青少年たちは、安全な空間で自由に体を動かすこともできない。 そこで当団体は、2016年2月より現地政府ONARS及びUNHCRに協力する形で、子どもたちが安全に自分たちのライフスキルを向上することができる場である「子どもの広場(Child Friendly Space)」の活動を起ち上げ、同活動を基本的に週5日間、継続して運営して

	きた（2016 年 3 月より 15 か月間で 267 セッション。平均参加者 48 人/回）。それまで毎日家（テント）の中に閉じこもったり、近所の子どもと喧嘩をしていた子どもたちは、子どもの広場でスタッフに見守られながら時間を過ごすことで、精神的な落ち着きを見せるようになったのに加え、集団行動や、ルールを守る、ルールを破る子を注意する、自分たちでルールを作る、といったライフスキルを獲得することができるようになった。こうした子どもの広場の活動は、自らも難民である青年たちがアニメーター（ファシリテーター）となり、当団体スタッフの監督・指導のもとにボランティアで運営してきた。また、これまでに、子どもの権利や子どもの保護に関する啓発集合研修を 4 回、リーフレット配布と対面ブリーフィングによる啓発を 1 回、延べ 663 名の保護者を対象に実施した。特に、何が子どものために最善なのかを問いかけ、議論してもらうことで、保護者の行動変容につながった事例も観察されており、キャンプ全体で大人が子どもを保護していく環境を整えていくことへの、意識の醸成につながった。 このように、先行事業によって、マルカジ難民キャンプにおける子どもの保護事業の必要最低限な基盤は整備され、一定の成果が見られている一方で、同活動は、まだ持ち上げられてばかりで、多くの課題を残している。例えば、子どもをキャンプ全体で保護していくためには、キャンプ内に子どもの保護に関する情報が多くの人々に可視化されている必要があるが、現時点でハブとなる場所や掲示板はなく、また保護者同士が集まり、子どもについて話す場所もない。また子どもの活動も、十分なスペースがないため、砂利が多く、車も通る場所で「子どもの広場」の活動が行われている。 難民の子ども、青少年の多くは、紛争で心が傷つき、そして灼熱の砂漠の難民キャンプで将来が見えない日々を過ごす中で、低い自尊心を持ち、大きなストレスを抱えている。「子どもの広場」の活動を通じて、子どもたちのライフスキルを高めるとともに、活動を運営する青少年たちが自らのライフスキルと「子どもの保護」の専門性を高めることが求められている。また、依然として、家族の枠を超えてキャンプ全体で大人が子どもを保護する動きには至っておらず、更なる保護者への啓発が必要となっている。
(3) 事業内容	(ア) ハードコンポーネント (1) 「子どもの保護センター」の建設活動 キャンプ内の子どもと若者の置かれている状況に関する様々な情報を集め、住民に共有するとともに、カウンセリング等を行う「子どもの保護センター」を建設し、机や椅子、棚等を整備する。(1-1 建設会社選定、1-2 建設工事、1-3 机や椅子、棚等の整備) (2) 「子どもの広場」の整備と「多目的センター」の建設活動 ライフスキル向上を目指した活動の場である「子どもの広場(Child Friendly Space)」にソーラーパネルを設置して暗くなくても活動の準備ができるようにする。また、保護者たちが、子どもを取り巻く課題や地域の課題等を話し合うとともに、青少年が様々な活動を通じて、紛争で傷ついた心を癒

ライフスキルの定義 (1993 年 WHO を採用) : (1) 自己認識、(2) 共感性、(3) 効果的コミュニケーションスキル、(4) 対人関係スキル、(5) 意志決定スキル、(6) 問題解決スキル、(7) 創造的思考、(8) 批判的思考、(9) 感情対処スキル、(10) ストレス対処スキル	やすことができる「多目的センター」を建設する。(1-1 建設会社選定、1-2 建設工事) (3) 子どもの保護の啓発看板及び提案箱の設置活動 キャンプ内に子どもの保護や権利に関する啓発看板や掲示板、状況改善のための提案箱を設置する。 (イ) ソフトコンポーネント (1) 子どものライフスキル向上研修 (「子どもの広場活動」) 対象 : 1 回平均 20～40 名の子ども (週 5 回) 内容 : イエメン国内の紛争によって傷付いた心のケアや避難生活のストレス緩和、児童婚 (強制婚) や児童虐待の早期発見、非行の抑制等を目的に、「子どもの広場」「多目的センター」及び近隣都市にてスポーツや文化活動を通したライフスキル向上活動を行う。また、砂漠の中に位置するキャンプを離れ、ジブチ市及びタジュラ市にて将来について考え、キャンプでの生活を肯定的に捉えるための研修 (ライフスキルの「問題解決スキル」、「創造的思考」、「批判的思考」、「感情対処スキル」、「ストレス対処スキル」に対応) を行う。子どもに対する本活動は、以下の (2) の青少年が中心となり企画・運営を行う。 (2) 青少年のライフスキル向上研修 対象 : 1 回平均 20 名の青少年 (キャンプ外 4 回、キャンプ内 2 回 : 計 6 回) 内容 : 上記 (1) の「子どものライフスキル向上研修」のアニメーター (ファシリテーター) である青少年を中心に、ライフスキルと子どもの権利、子どもへの対応方法等に関する研修を行う。本研修を通じて、キャンプ内で子どもの保護を推進する青少年リーダーを育成する。各研修の内容は次の通り : 1) 子どもの権利／保護／記録 (基礎)、2) リーダーシップ、3) 復習、4) 子どもの権利／保護／記録 (応用)、5) 子どもの心理、6) 復習 ※3) 6) はキャンプ内研修 (3) 保護者対象研修 対象 : 1 回平均 20 名の保護者 (全 4 回) 内容 : 子どもの権利や児童労働等に関する講習に加え、参加者が抱える子どもに関する課題についての話し合い、児童虐待を発見した場合は、保護者間で注意をし合う等、子どもをキャンプ全体で保護する仕組みを作る。各研修の内容は次の通り : 1) 子どもの権利／保護 (基礎)、2) キャンプでの子どもの課題と対応①、3) 子どもの権利／保護 (応用)、4) キャンプでの子どもの課題と対応②
(4) 持続発展性	裨益人口 直接裨益人口 マルカジ難民キャンプの子ども・青少年・保護者 約 200 人 間接裨益人口 マルカジ難民キャンプの子ども・青少年・保護者 約 1,400 人 (ア) ハードコンポーネント 子どもの保護センターやコミュニティセンターの建設について

	は、同キャンプを管轄する UNHCR と調整済みであり、申請団体と UNHCR が維持管理を行う。イエメンの紛争の終結の見通しが立ってはいないが、難民が帰還した場合は、建物はジブチ政府に贈与し、地元住民が活用を行う旨、現地政府と契約をおこなう。 <u>(イ) ソフトコンポーネント</u> ソフトコンポーネントの中心的活動である「(1) 子どものライフスキル向上研修 (「子どもの広場活動」)」は、「(2) 青少年のライフスキル向上研修」の参加者を中心に運営が行われることで、事業終了後も活動の持続発展性が担保される。 事業終了後最低 5 年間、全活動効果のモニタリングを行う。
(5) 期待される成果と成果を測る指標	(成果 1-1) マルカジ難民キャンプの住民が子どもの保護に関する情報に接したり、子どもが悩みの相談をすることができる。 (指標 1-1) 子どもの相談件数 0 個→10 件以上 (活動報告書で確認) (成果 1-2) 保護者が子どもを取り巻く環境や地域の課題等を話し合うことができる。 (指標 1-2) 話し合う機会 0 件→5 件以上 (活動報告書で確認) (指標 1-3) 住民自ら、キャンプ内の子どもの保護をめぐる現状や改善案について表現出来るようになる。 (指標 1-3) 表現機会 0 件→10 件以上 (活動報告で確認) (成果 2-1) マルカジ難民キャンプの子どもたちのライフスキルが向上する。 (指標 2-1) 研修対象者への事前事後テストで 40%以上向上する。(事前事後テスト) (成果 2-2) マルカジ難民キャンプの青少年たちのライフスキルが向上する。 (指標 2-2) 研修対象者への事前事後テストで 40%以上向上する。(事前事後テスト) (成果 2-3) マルカジ難民キャンプの保護者の「子どもの権利」や「子どもの抱える問題」の理解が深まる。 (指標 2-3) 研修対象者への事前事後テストで 40%以上向上する。(事前事後テスト)